

高架下の有効活用

背景

この案は日本の都市的地域のどこでもよく見かけられる鉄道や道路にかかる高架下の活用にかかるものです。空間のまま、あるいは材料置き場程度の利用にとどまっているのが現状で、灰色のまちの印象を与える大きな要因のひとつになっています。

こうした状況を普段見かけて、駅に近いのに、あるいは交通便利なのにとしつつ、ああもったいない、何か有効活用はないのかしらと思っている方もたくさんいるのではないかと思います。と同時に、案外こうしたらのアイデアが湧いている方もいるかもしれません。そこで思いつくアイデアを提示してみます。

方法

(1) アイデア

- ・野菜の栽培場づくりです:いわゆる野菜の工場生産の場です。太陽光があたらないので人工照明が安定し可能性を高めます。
- ・醸造所&酒カフェづくりです:最適な場としての蔵に匹敵する環境が確保でき、案外評判を呼びます。
- ・メモリアルホールづくりです:参加者が順序良く流れますし、地域にとって身近で案外集まりやすくまた所在を覚えやすいと思います。
- ・海洋深層水の湯&憩いの家づくりです:海面から二百メートル下の海水、いわゆる海洋深層水にはミネラルが豊富で身体も温まり、交通便利なために人が集まりやすくまた憩いやすいために繁昌すると思います。
- ・幼稚園&託児所づくり:何といても交通便利が一番。働くパパやママにとって最適場所になる可能性が高いと思います。
- ・産直売所づくりです:近郊農家のほかまちの園芸家による持ち込み販売所で、顔の見える店として評判を呼ぶ可能性が高いです。勿論漁業関係のそれも視野に入れます。さらには町の工芸家や趣味の域を超えた方々の完成品を持ちより販売できるところとしても活用の選択肢を広げておきます。
- ・児童公園です:すべり台や鉄棒などセットします。雨の日でも遊べるのが最大の利点です。囲いは金網で大丈夫です。

(2) 実現手法

市町村行政が高架及び高架下土地所有者との仲立ちをします。目的的なNPO法人あるいは企業団を設立し管理する手もあります。

効果

- ・雨の日でも利用できます。
- ・灰色のまちの印象がぐっと軽減されます。
- ・人の行き来が生じ、にぎやかさが取り戻せ、地域の活性化や連帯につながります。